

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立大宮中央高等学校 )

目指す学校像	多様な学習システムを提供し、生徒一人一人の自己実現を助け、思いやりのある情操豊かな人間の育成を図る。
--------	--

重点目標	1 自ら学ぶ力や人生を切り拓く力を育成する。 2 地域等と連携し、豊かな心や自立して生きる力を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 11名  
生徒 7名  
事務局(教職員) 19名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標					30年度評価(2月14日現在)		実施日 平成31年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【通信制の課程】 ・生徒は学習への意欲はあるが、学習内容に難しさを感じている。 ・生徒の進路意識を高めるため、就職や進学への指導に、外部の力を活用するなどの工夫改善が必要である。	①生徒が意欲的、計画的に学習を進められるよう指導法を改善する。 ②生徒が進路希望を実現できるようキャリア教育を改善する。	①生徒が最後まで学習を続けられるよう、レポートや授業について工夫・改善するとともに、補習等の体制を充実させる。 ②就職支援アドバイザー、学習サポーター、若者サポートステーションなどの外部の教育力を十分に活用する。	□学習手帳や学習ガイドブック、受講ガイドブックを活用している生徒の割合 85% □授業やスクーリングに意欲的に取り組んでいる生徒の割合 70%	※①から⑩は3課程の生徒アンケートの数値である。 ①手帳、ガイドブックの活用 84.6%(前年比-1.4) ②授業への意欲的な取組 85.7%(+17.6) ③学力伸長の実感 66.5%(+5.8) ④進路決定への積極的な取組 59.3%(+11.7) ○評価項目1-①について 学習手帳等ツールの活用率は微減であるが、具体的方策にあげた取組により授業への意欲の上昇を図ることができ、学力の伸長を感じる生徒も増加した。単位修得率は前期認定において2ポイント程度の上昇である。 ○評価項目1-②について 進路に対する取組のできる生徒が増加しつつある。さらなる意欲喚起を図りたい。	A	【通信制の課程】 ①積極的に学習する生徒は増えているが、依然としてレポートの学習に難しさを感じている、今後ともレポートの工夫改善を進める。 ②定期的に学習サポーターを活用し、補習や学び直しに取り組む生徒が増加した。今後も補習体制の強化に向け取り組む必要がある。	◆学習指導 ・自分の学習を自己管理する本校の仕組みに慣れてきて、意識的に取り組めるようになった。 ・学習サポーターの利用率が高まり、定期利用の生徒も見られる。質問のできる自習室として有効活用している生徒もいる。是非継続をお願いする。 ・LHRを軽視する生徒が多いので重要性をもっと伝えてほしい。 ◆進路指導 ・特に就職面では、きめ細かい指導を感じた。就職支援アドバイザーなど外部との連携を継続し、支援の一層の充実を図ってほしい。 ・進学面では、大学入試が大変多様化しているため、一層の情報提供をお願いしたい。
	【単位制による通信制の課程】 ・レポートを工夫改善し、学力向上につなげる必要がある。 ・生徒が自らの進路実現に向けて取り組めるよう、ガイダンス資料の充実が課題である。		①個に応じた履修指導の在り方やレポートの改善に向けた研究を行う。 ②進路説明会やHRなどを利用し計画的な進路指導を実施するとともに、ガイダンス資料を充実させる。	□学力の伸長を実感できた生徒の割合 65% □進路実現や高校卒業に向けて積極的に取り組んだ生徒の割合 50%			【単位制による通信制の課程】 ①単位修得率の向上については履修指導研修会等を通じて引き続き工夫改善を図る。 ②生徒の進路意識を高めるため、早期の情報提示とガイダンス資料の工夫改善が必要である。	
	【単位制による定時制の課程】 ・生徒の学習需要が益々多様化することから各分掌との連携を一層密にし、きめ細やかな指導を実現する。 ・全職員をあげて進路指導に取り組むとともに就職支援アドバイザーなどを活用し、一層の進路意識の喚起を図る。		①教科、各分掌と連携して多様な講座を開発する。生徒の希望・需要に応じたきめ細やかな学習システムを具体化する。 ②履修指導、面談、進路に関する説明会等の機会を活用して、生徒の進路意識を高め、自ら行動を起こせるように支援する。	□単位修得率の向上 □卒業時の学校満足度の向上 90%			【単位制による定時制の課程】 ①多様な学習需要に応えるために、多様な講座の開発を図る。内規等の改正・整備により教育活動の持続性を高める。 ②全職員をあげて進路指導に取り組むとともに、卒業後のサポートにも一層配慮していく。また、1、2年次相当生の進路意識の向上を図る。	
2	【通信制の課程】 ・生徒が自己実現に向けて、積極的に学校生活を送るよう、行事や特別活動の工夫改善や個に応じた教育相談体制の充実が必要である。	①生徒の規範意識を向上させる。 ②社会的自立に向けた多様な学びの場を提供する。	①生徒が積極的に学習や学校行事に参加できるよう、年間行事や行事の内容を再点検する。 ②支援が必要な生徒に適切な対応ができるよう、相談室を設置するとともに教職員研修を充実させる。	□マナーある行動、けじめのある学校生活を送っている生徒の割合 90% □自分のよさや課題を理解し、自分の力を伸ばそうと取り組んでいる生徒の割合 60%	⑤マナーやけじめのある学校生活 94.8%(前年比+0.3) ⑥自己理解、力を伸ばす取組 68.9%(+9.7) ⑦学校行事参加率/満足度 32.1%(+9.3)/76.7%(-13.6) ⑧部活動参加率/満足度 15.3%(+7.0)/83.1%(+8.1) ⑨思いやり、気配りができる 90.5%(+0.5) ⑩学校満足度(入学してよかった) 92.9%(+1.6) ○評価項目2-①について 規範意識については、日常の声かけや授業を通じて一定の指導ができた。 ○評価項目2-②について 特別活動の参加率は指標を超えたが、満足度が下がってしまった。部活動は新設の効果もあり参加率・満足度も上昇した。	A	【通信制の課程】 ①学校行事や部活動に参加する生徒の割合が増えつつあるので、生徒への周知や内容等についての工夫改善を行う。 ②新しく設置された相談室の効果的な活用に向け、専門家の支援を受け研究を推進する。	◆生徒指導・教育相談 ・地元自治会に寄せられる学校への苦情は無くなった。近隣から見て、落ち着きを感じられる。 ・単位制生徒ホールの利用の仕方が改善された。 ・通信制でも相談室が開設されてよかった。一層の周知を図ってもらいたい。 ◆学校行事・部活動等 ・行事への参加率が上がったのは明るい見通し。じっくり取り組んでほしい。 ・後援会の立場からも行事のサポートを充実させていきたい。 ・部活で活躍する生徒の表彰を全体行事の場で設けてはどうか。ほかの生徒への励みにもつながると思う。
	【単位制による通信制の課程】 ・生徒が自己有用感を高め、向上心を持ち、学校生活に取り組めるよう、学校行事や生徒会活動への参加率の向上や外部機関との連携など多様な学びの場を工夫して提供する必要がある。		①学校行事や生徒会活動への参加を個々の生徒に呼びかけるとともに、参加率の向上について研究を行う。 ②NPOとの連携や学習サポーターの活用について研究し、生徒の状況に応じた学びの場を提供する。	□特別活動 ・参加率 30% ・満足度 90% □部活動 ・参加率 10% ・満足度 80% □思いやりの気持ちをもち、他の人に対する気配りができる生徒の割合 90%			【単位制による通信制の課程】 ①参加した生徒の満足度は高いので、内容や形態を工夫し参加率のさらなる向上のための方策を探る。 ②学習サポーターは有効活用できた。内部組織と外部機関の連携を強化し、幅広く生徒状況の把握を図る必要がある。	
	【単位制による定時制の課程】 ・安心安全な学習環境を確立するために全職員の共通理解をもとにした生徒指導を進める。 ・生徒への支援を充実させるために、地域の多様な人材との連携を研究し、向上を図る。		①「学びたい意欲」を大切に、よりよい学習環境を実現するために全教職員が共通理解をもって、指導にあたる。 ②地域や保護者への発信を積極的にいき、また、地域や学校外の人材を活用し、充実した学びの場を提供する。				【単位制による定時制の課程】 ①より良い学習環境のための生徒指導を進める。新たな交通安全指導方針に基づいた指導に検証に努める。 ②生徒に対する支援の充実を図るために、保護者や校外の支援組織との関係を充実させる。	